



ギンチャクなどの海中特徴物と磁北からの角度が描かれた簡単なルート図が提供されました。水深は約20m。

インストラクターの合図で、指示された一番目のミズガメカイメンへ向かいます。

コンパスを30度にセット、レギュレータから空気を吸い、中性浮力を保ちながらフィンを上させます。途中コンパスで方位を確認。

各海底特徴物のコントロールにはフラッグもバンチもありませんが、ルート図に書かれた順番にコントロールをチェックしていかなければフィニッシュまでたどり着けません。

自分とルート地図、それにコンパスを信じるほかありません。これはまさに海底オリエンテーリングです。

一番目のコントロールを確認後、続いて二番目のコントロールとなる小岩に向かってコンパスを150度にセット。フィンを上させて距離を測ります。一緒に潜行したインストラクターのかたは付かず離れず私の行動をチェックしています。

コンパスはオリエンテーリングで使用するものと殆ど機能的に変わりません。腕時計のように腕に装着して使用します。磁針の回りにはオイルが入っています。クロスベアリングなども可能です。

近い将来、「ダイビング・オリエンテーリング」なるものができて楽しめる日が来るかも知れません。

(徳野利幸)

コンパスナビゲーションのルーツは海。大航海時代から陸に上がったコンパスが進化してオリエンテーリングが発達した。そしてまたナビゲーションは海に帰る。

## ダイビングとナビゲーション

皆さん、スキューバダイビングのご経験はおありでしょうか。

仕事の関係でフィリピンのセブ島によく行くようになってから、このセブ島が若者に人気のダイビングスポットであることを知りました。私も趣味の世界を広げようと、約3年前にダイビングライセンスを取得しました。色々な形や色をした珊瑚や魚。潜行したらそこは本当に別世界です。

ダイビングライセンスのひとつ「Advance」の認定講習の必須カリキュラムとしてナビゲーションがあります。海に潜ったときにコンパス等を使って安全に元の場所に戻ってきたり、ダイバー航海術とも言えるダイブポイントの方位を読むために必要なスキルです。

このカリキュラムの初日に机上講習でコンパスの使用 방법이説明されました。内容はコンパスを使ってある角度で進み、そして元の場所に戻ってくる

方法や、90度ずつ角度を変えて四角形を描いて元の場所に戻ってくる方法などでした。

## 海底オリエンテーリング

翌日の実技講習で実際に海に潜って、まずコンパスナビゲーションをやってみました。

潜行してからの距離感を掴むには、フィン(足ひれ)の上下往復回数を数えます。ちょうどフット0という歩測にあたります。海中では潮の流れがあるので、四角形を描いて元の場所に戻るのには難しく感じました。



ダイバー用コンパスの例  
フット0用コンパスでも有名なスト社も発売している。

次はいよいよ海底ナビゲーション。ダイビングセンターでは予め海底調査を行っていて、岩、珊瑚、海草、イソ



2006年夏に公開された映画「パイレーツ・オブ・カリビアン -デッドマンズチェスト-」では、船長のジャック・スパロウの持つ「北を指さないコンパス」が、重要なアイテムとして登場する。